



いふだより

第4号

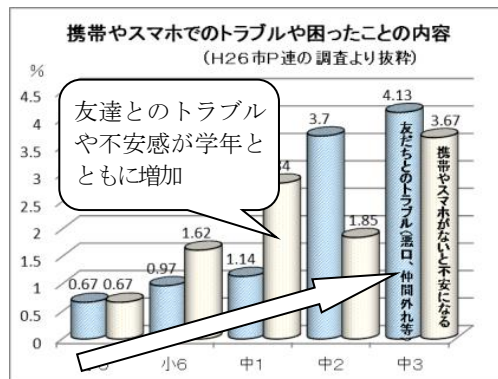
このたよりは、尾張旭市内の小中学生の子をもつご家庭や、教職員のみなさん、地域の方に向けて発行しています。

「ネット」に関わるいじめ・不登校

インターネット接続端末の多様化と普及により、中学生だけでなく、小学生でもインターネットを利用することが当たり前になりました。しかし、右のグラフのように、便利さの中にいじめや不登校の要因が潜んでいることもあります。市内や全国の小中学生の事例の一部を紹介し、ネットに関わるいじめや不登校について考えます。

1 いじめとネット

ネットでのいじめは、現実でのいじめからネットいじめに発展するパターンと、ネットでのコミュニケーショントラブル（問題発言、既読スルー、未読放置等）などからネットいじめになるパターンがあります。また、ネットいじめには、①ネット上でのグループから外す「仲間はずれ」②ネット上での会話を無視する「無視」③集団で悪口や誹謗中傷を書き込む「集団いじめ」④見られたくない写真や動画を共有する「画像・動画共有」などのパターンがあります。全国では様々なネットいじめが存在します。その一例を紹介します。



全国での事例 SNSやプロフなどでのいじめ (参考資料 平成26年度総務省調査研究より)

ある時、小学6年生のA君は、冗談で友達B君の悪口をSNSに記入。B君には、見られないように設定していましたが、ほかの友達C君からB君に伝わりました。A君の書き込みに激怒したB君は、自分の日記にきつい言葉でA君への文句を書き込みました。それは、SNS上の友達にあっていう間に広まりました。落ち込んでしまったA君は、学校に行けなくなりました。

尾張旭市での事例

尾張旭市でも数件ネットに関わるいじめが確認されています。SNSや通信ゲームを使って、友達の悪口や個人情報を書き込み、いじめにつながってしまった事例が報告されています。

原因 ネットいじめが深刻化する一因を紹介します。

- ① 文字での伝えにくさ=文字だけではうまく気持ちが伝わらず、誤解を招き、いじめにつながる。
- ② 匿名性=発信者を特定しづらいという心理から、普段言わないようなひどいことを書き込み、相手を傷つける。
- ③ 閉鎖性=周りから見られないという安心感から、いじめが起きやすく、周りからも発見しづらい。
- ④ 拡散性=コピー&ペーストで瞬時に多数に伝達できるため、いじめが素早く拡大し、深刻化しやすい。

対策 見えにくいネットいじめへの予防法や対処法について紹介します。

予防として

- ・ネット上でも仲間はずれや悪口をしないなど、日頃から思いやりの気持ちやネットモラルを育てておく。
- ・トラブルにあったら、一人で抱え込まずに親や先生に相談するという信頼関係を築いておく。
- ・悪質な書き込みは犯罪になる可能性があるなど、発信した内容には責任が伴うことを教える。

ネットいじめに遭遇してしまった場合の対処として

- ・証拠を保存し、学校や関係機関に相談するとともに、一旦ネットから離れる。



2 不登校とネット（SNSとゲーム）

不登校の子どもの中にはネットやゲームに依存し、夜更かしなど生活の乱れが見られることがあります。（すべてがネットやゲームをするわけではありません）これは不安やストレスを解消するための1つの過程と考えられますが、ネットへの過度な依存や引きこもりなど深刻化しないよう支援するとともに、「不登校とネットの負のスパイラル」からスムーズに脱却させることが大切です。

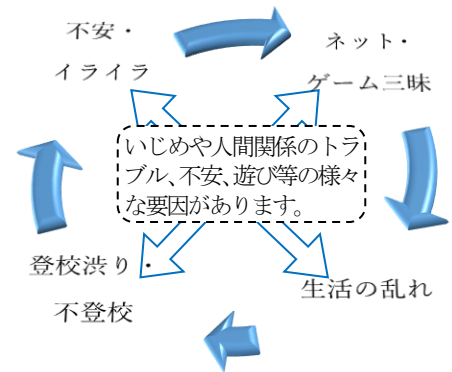
全国での事例 オンラインゲームに長時間没頭

①オンラインゲームにはまっている小学5年生。夜中でも親に隠れてゲームを楽しんでいました。ゲームに参加しないと仲間はずれにされないか心配で、途中で止められなくなってしまいました。②ゲームが大好きな中学1年生。GW明けから体調を崩して休みがちになり、その後、全く学校に行かなくなりました。

尾張旭市での事例 9月の事例より

尾張旭市でも、ネットやゲームに依存している可能性のある事例があります。学校に行っていない日は1日中ゲーム、昼夜逆転した生活、夜中までスマートフォンを使用していて睡眠不足などの事例が報告されています。

不登校とネットの負のスパイラル



原因 ネットから離れられない一因を紹介します。

- ①現実逃避＝ストレスや不安を解消するために、現実から逃避する。現実とは異なる自分をネット上で楽しむ。
- ②強迫観念＝オンラインゲームの仲間から離れられない(男子に多い)。SNSの友達のきずなやつなかりを止めることができない(女子に多い)という恐怖が払拭できない。
- ③依存性＝ゲームやSNSがのめり込みやすい(脳内ドーパミンを刺激しやすい)構造になっている。

対策 ネット・ゲーム依存への予防法や対処法について紹介します。

予防として

- ・生活リズムを崩さないよう、「夜9時以降は使用しない」などのルールを決める。
- ・学校や家庭でのつながりを大切に、勉強や学校生活、家族の団らんの楽しさを実感させる。

不登校中にネットやゲームをし始めたときの対処として

- ・取り上げたり叱ったりしない。不登校の過渡期として温かく見守りながら家で安心して過ごせるようにする。
- ・不登校の程度やネットの使用状況によって対応が異なるため、学校やカウンセラー・専門機関に相談する。



3 ネットに関する市内の取り組みについて

おわりあさひネットルール5か条の設定

一昨年度、市小中学校PTA連絡協議会・小中学校長会で、「おわりあさひネットルール5か条」を決めて、家族で話し合い、ケータイ等の使用の約束を決めることを呼びかけました。また、昨年度から第3日曜日の家庭の日を「あさひファミリーデー」として、子どもたちがスマホやケータイゲームからはなれて家庭・地域で顔と顔を見ながら、つながりや絆を深める体験ができるような環境をつくるように呼びかけています。

〈おわりあさひネットルール5か条〉

- ① 思いやりの気持ちを忘れない。（仲間はずれ、悪口などをしない）
- ② 夜9時以降は使用しない。
- ③ フィルタリング・迷惑メールブロックを必ずする。（勝手に解除しない）
- ④ ネットで知り合った人とは、直接会わない。
- ⑤ トラブル・被害にあったら、親や先生に相談する。